

償還交付運用報告書

GCIオルタナティブバスケット・ ファンドV3（ラップ専用）

追加型投信／内外／資産複合／
特殊型（絶対収益追求型）

第3期＜償還日 2020年9月9日＞

作成対象期間：2020年6月16日～2020年9月9日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「GCIオルタナティブバスケット・ファンドV3（ラップ専用）」は、2020年9月9日をもちまして繰上償還させていただきました。

ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

これまでの皆様のご愛顧に対しまして、心より厚くお礼申し上げますとともに、今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第3期末（2020年9月9日）	
償還価額	9,706円46銭
純資産総額	1.00533百万円
騰落率	0.5%
分配金合計	－円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

当ファンドは、信託約款において、運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の方法により閲覧、ダウンロードすることができます。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URLにアクセスし、「お知らせ」から「プレスリリース」を表示させ、当該ページから運用報告書（全体版）を閲覧及びダウンロードすることができます。

なお、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

株式会社GCIアセット・マネジメント

東京都千代田区西神田3-8-1

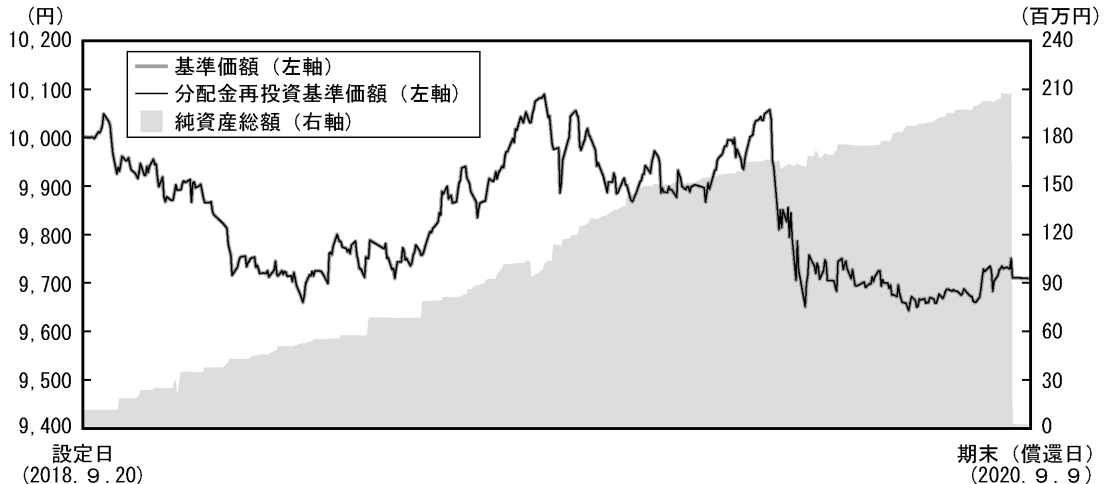
お問い合わせ先（投信ビジネス・グループ）

TEL：03-3556-5040（営業日の9:00～17:00）

URL：<https://www.gci.jp>

運用経過

■設定以来の基準価額等の推移



設 定 日 : 10,000円

期末 (償還日) : 9,706円46銭 (既払分配金 (税引前) : 一円)

騰 落 率 : △2.9% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因（2018年9月20日～2020年9月9日）

当ファンドの基準価額は下落し、設定来のリターンは△2.9%となりました。

当ファンドはGCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、絶対収益の追求を目指して運用を行いました。

全期間を通じてマザーファンドの残高に対して高位の組入を行っていた「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が値下がりしたことにより、当ファンドの基準価額は下落しました。

「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」においては、2018年終盤から2019年序盤にかけては米国の金利上昇を収益化すべく米国債券の売り持ちのポジションをコアとして投資していましたが、主に当ポジションより損失が発生しました。2019年夏ころには世界的な経済成長の減速懸念や主要中央銀行の緩和姿勢を受けて先進国国債の買い持ちポジションが主要となり、これらから収益を獲得し、当ファンドの基準価額は上昇基調となりました。2020年序盤は世界的な株価上

昇を受けて北米株式の買い持ちを主要ポジションとしていましたが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大をうけた急激な株価の調整をうけ、2020年2月末から3月にかけて当ファンドの基準価額も大幅な下落を余儀なくされました。

■ 1万口当たりの費用明細

項目	第3期		項目の概要
	2020年6月16日～2020年9月9日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	11円	0.114%	(a) 信託報酬の総額＝(1) 基本報酬＋(2) 成功報酬
(1) 基本報酬	11	0.114	基本報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（期中の日数÷年間日数） 当期中の平均基準価額は9,673円です。
(投信会社)	(10)	(0.104)	委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価
(販売会社)	(0)	(0.003)	交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.008)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(2) 成功報酬	－	－	ファンドの運用実績に応じて委託会社が受け取る運用の対価
(b) その他費用	－	－	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000
(その他)	(－)	(－)	その他は、信託事務の処理に要するその他の費用
合計	11	0.114	

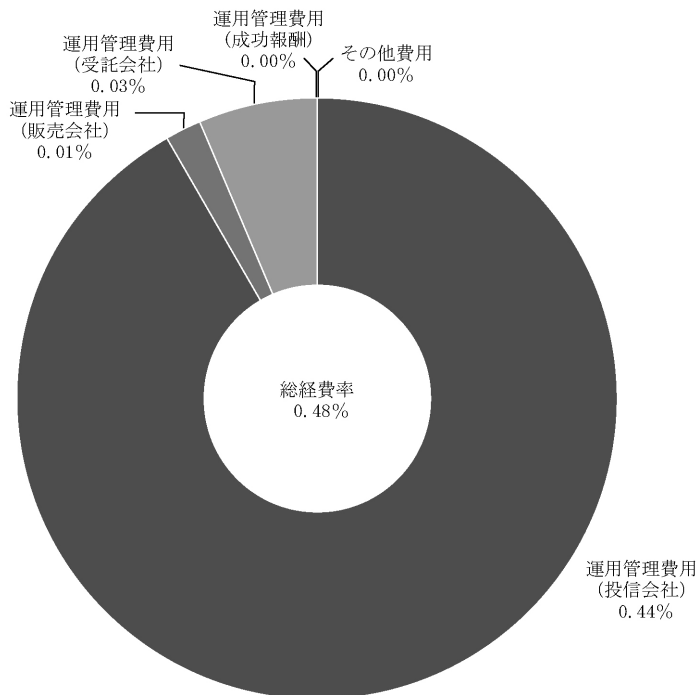
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.48%です。



(注) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) マザーファンドの投資対象先ファンドが支払った費用の比率は、単位未満のため表示していません。

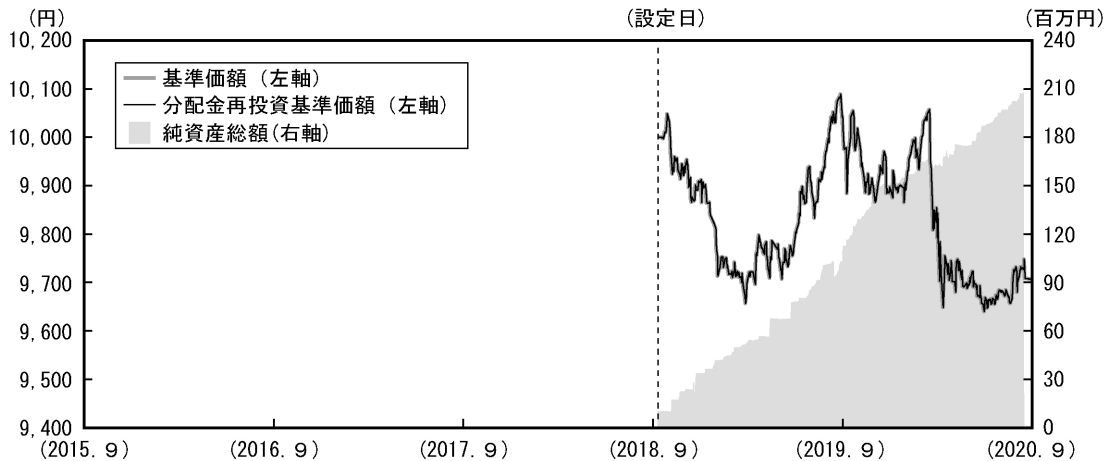
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■最近 5 年間の基準価額等の推移

最近 5 年間の推移

（2015年 9 月 9 日～2020年 9 月 9 日）



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありませんので、ご注意ください。

（注）当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

最近 5 年間の年間騰落率

	2018年 9月20日 設定日	2019年 6月17日 決算日	2020年 6月15日 決算日	2020年 9月 9日 償還日
基準価額 (円)	10,000	9,824	9,661	9,706.46
期間分配金合計（税引前） (円)	—	0	0	—
分配金再投資基準価額の騰落率（%）	—	△1.8	△1.7	0.5
純資産総額 (百万円)	10	78	187	1.00533

（注）騰落率は、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しています。

（注）騰落率は、1 年前の決算応答日との比較です。ただし、2019 年 6 月 17 日の騰落率については、設定日との比較で、償還日の騰落率は、償還日の直前の決算日との比較です。

（注）償還日以外の純資産総額の単位未満は切り捨てています。

■設定以来の投資環境（2018年9月20日～2020年9月9日）

【国内債券】

国内債券市場は設定時と比べて上昇（金利は低下）しました。設定当初には海外長期金利の上昇を受けて、国内の金利も上昇しましたが、その後、2018年末から19年初にかけ国内外で株価が下落となったこと等から2019年初には国内10年国債利回りが再度マイナス圏に突入しました。その後も世界景気の減速懸念や米国金利の低下に伴いじりじりと金利は低下し、その後も米中貿易摩擦や米国の利下げ観測等を受け、国内債券は上昇（金利は低下）、国内10年国債利回りはさらにマイナス圏を深堀りする格好となりました。

2019年8月には米中貿易摩擦を受けたリスクオフにより10年国債利回りは $\Delta 0.3\%$ 近辺まで低下しましたが、その後は日銀の政策、世界各国の堅調な経済指標等を背景に金利は上昇基調が続きました。2020年3月頃には、新型コロナウイルスの感染拡大で国内債券も金利低下となりましたが、その後は再び金利が上昇し、当ファンド償還日まで10年国債利回りは0%近辺での推移となりました。

【国内株式】

国内株式市場は設定時と比べて下落しました。2018年10月初に日経平均株価が27年ぶりの高値を更新する場面もありましたが、その後は、米国ハイテク株の急落や米国景気の減速懸念等を受け株価は下落しました。2019年1月以降は、FRB（米連邦準備理事会）の利上げに慎重な姿勢への転換、米中通商協議の進展期待等を背景に株価は回復していきましたが、2019年5月に入り一転米中貿易摩擦が激化、為替が円高方向へ進んだことも重しとなり、再び株価は下落となりました。2019年秋以降は米中通商協議の進展等を受けて上昇基調となり、日経平均株価は24,000円台に達する場面もありましたが、2020年2月後半から3月半ばにかけては新型コロナウイルスの世界的感染拡大とこれに伴う世界経済の減速懸念により、国内株式は急激な下落となりました。しかしその後、各国による経済対策、新型コロナウイルス感染拡大鈍化と経済再開への期待等を受けて回復基調が続きましたが、当ファンド設定時の水準にまでは至りませんでした。

【外国債券】

外国債券市場は設定時と比べて上昇（金利は低下）しました。設定当初は良好な米国経済指標やFRB高官のタカ派姿勢を背景に金利は上昇しましたが、2018年終盤に入ると世界的な株価急落を受け金利は低下に転じました。その後も、主要中央銀行の慎重な姿勢、世界的な景気後退への懸念、2019年5月以降の米中貿易摩擦の激化等、金利低下圧力が続きました。2019年終盤には米中関係の進展、英国総選挙の結果等を背景に金利は上昇するも、2020年に入ると新型コロナウイルスの世界的な感染拡大等を受けて金利低下が急激に進み、米国10年債の利回りは一時過去最低の0.3%台を記録する場面も見られました。その後経済再開への期待が広がったこと等を受けてやや金利水準を戻す場面もありましたが、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較すると低い金利水準での推移が当ファンド償還日まで継続しました。

【外国株式】

外国株式市場は設定時と比べて上昇しました。2018年10月には米国ハイテク株の急落をきっかけに

下落となり、その後も、米国の政府機関閉鎖や英国のEU離脱交渉の混迷、米中関係の悪化懸念等の悪材料が多く調整局面が継続し、年末にかけて一段と下落しました。しかし、2019年に入ってから、主要中央銀行の慎重な姿勢、米中貿易協議の進展、好調な企業決算等を背景に上昇が続きしました。2020年5月には米中貿易摩擦の激化、欧米の経済指標の悪化、米国による対メキシコへの追加関税表明などから下落となりましたが、その後主要国中央銀行の経済下振れリスクへの対応、米国の対メキシコへの追加関税の回避等を材料に反発し、また2019年秋以降は米中通商協議の進展、FRBの緩和姿勢、英国の総選挙結果等を受けて、上昇基調が続き、米国株式市場では主要3指数が史上最高値を更新しました。2020年2月後半から3月半ばにかけては新型コロナウイルスの世界的感染拡大とこれに伴う世界経済の減速懸念により、株式は短期間で世界的に急落となりましたが、2020年3月後半以降は各国による経済対策、感染拡大鈍化とワクチン開発、経済再開等を背景に上昇基調が続き、米国の主要株価指数では再び史上最高値を更新するものも見られました。

【為替相場】

為替相場は、設定時と比べて円が対米ドルで上昇しました。2018年12月半ばから2019年初にかけては世界経済の減速懸念や株安を受けて円高が進みましたが、その後は米中通商協議の進展期待や良好な海外経済指標等を背景に円安傾向となりました。しかし、2019年5月以降は米中貿易摩擦が激化し、加えて米国によるメキシコへの追加関税が表明される等を受けて再び円高が進みました。2019年秋からは堅調な米経済指標、米中通商協議の進展等を背景にゆるやかに円安基調となりました。2020年に入ると、新型コロナウイルスの感染拡大を受けたリスク回避の動きで2020年3月には一時1ドル101円台となるなど急激に円高が進む場面もありました。その後各国による金融緩和や財政刺激策への期待から円安方向に反転しましたが、償還時にかけては米ドルが他通貨に対して総じて安くなる展開となり、円についてもやや円高方向への推移となりました。

■当該投資信託のポートフォリオ（2018年9月20日～2020年9月9日）

当ファンドでは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の指定投資信託証券に投資を行いました。また、GCIマネープールマザーファンドの組入れも行いました。

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドにおいては、定性評価、定量評価等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行い、当期間においては投資対象とする投資信託証券のうち、「GCIシステマティック・マクロファンド Vol110 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドクラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。

GCIマネープールマザーファンドにおいては、短期金融商品の中で相対的にレートの良いCP現先取引を中心に運用を行いました。

当ファンドは約款の規定により、2020年9月9日に償還いたしました。設定以来約2年にわたるご愛顧をいただき、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■当該投資信託のベンチマークとの差異（2018年9月20日～2020年9月9日）

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金（2018年9月20日～2020年9月9日）

信託期間中における収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。

なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行いました。

お知らせ**◇約款変更**

換金（一部解約）時にかかる信託財産留保額を廃止し、換金（一部解約）時の価額を換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に変更しました。

（2020年7月10日）

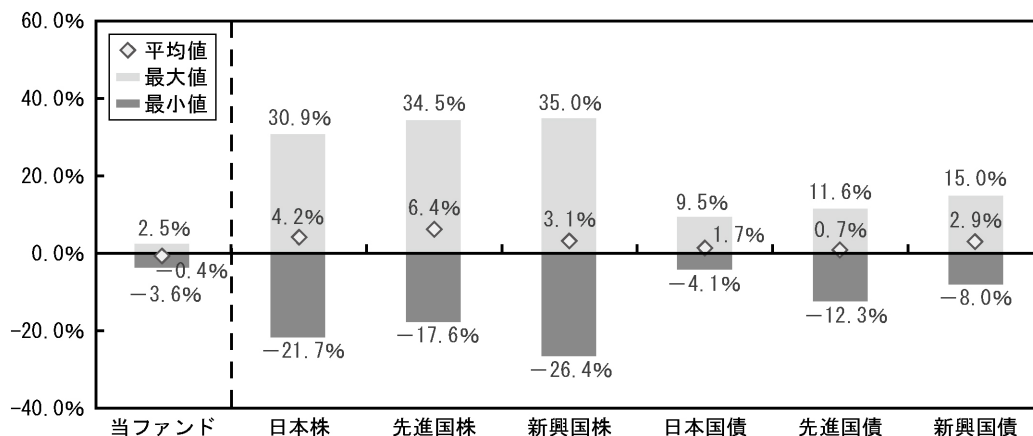
◇運用体制の変更

該当事項はありません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	当初：無期限（設定日：2018年9月20日） 2020年9月9日に繰上償還しました。	
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して安定的な運用を行います。	
主要投資対象	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV3（ラップ専用）	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド受益証券およびGCIマネープールマザーファンド受益証券
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
	GCIマネープールマザーファンド	わが国の短期公社債等
運用方法	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。同時に、GCIマネープールマザーファンドを組み入れることにより、わが国の短期公社債等に投資を行うとともに、リスクの低減を図ります。投資信託証券への投資にあたっては、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行うことを基本とします。	
分配方針	年1回（6月15日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・ 分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・ 収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。（ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



期間：2015年9月～2020年8月

(注) 当ファンドについては2019年9月～2020年8月の1年間、他の代表的な資産クラスについては2015年9月～2020年8月の5年間の各月末における1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示し、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての代表的な資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率を記載していますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<代表的な各資産クラスの指数>

日本株：Morningstar 日本株式（グロス・リターン）
 先進国株：Morningstar 先進国株式（除く日本、グロス・リターン）
 新興国株：Morningstar 新興国株式（グロス・リターン）
 日本国債：Morningstar 日本国債（トータル・リターン）
 先進国債：Morningstar グローバル国債（トータル・リターン）
 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債（トータル・リターン）

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

<各インデックスの成立ち・計算方法等の概要説明>

日本株：Morningstar 日本株式（グロス・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
 先進国株：Morningstar 先進国株式（除く日本、グロス・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。
 新興国株：Morningstar 新興国株式（グロス・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、世界の新興国で構成されています。
 日本国債：Morningstar 日本国債（トータル・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
 先進国債：Morningstar グローバル国債（トータル・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債（トータル・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

<重要事項>

GCIオルタナティブバスケット・ファンドV3（ラップ専用）（以下、「当ファンド」といいます）は、Morningstar, Inc., 又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.の関連会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に当ファンドに投資することの当否、または一般的な内外の株式・債券・REIT市場の騰落率と連動するMorningstarインデックスの能力について、当ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。株式会社GCIアセット・マネジメントとMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」といいます）の使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが株式会社GCIアセット・マネジメント又は当ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、株式会社GCIアセット・マネジメント又は当ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、当ファンドの基準価額及び設定金額あるいは当ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または当ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与していません。Morningstarグループは、当ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、株式会社GCIアセット・マネジメント及び当ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

2020年9月9日（償還日）現在、有価証券の組入れはありません。

※組み入れているマザーファンドの直近の計算期間の内容につきましては、償還運用報告書（全体版）に記載しています。

■純資産等

項目	第3期末（償還日） 2020年9月9日
純資産総額	1,005,330円
受益権総口数	1,035,733口
1万口当たり償還価額	9,706円46銭

（注）当期中における追加設定元本額は19,876,712円、一部解約元本額は212,436,440円です。